

8 「家族関係」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.91 点であり、基準年調査より 0.07 点上昇しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に上昇していることから、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和 5 年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「60～69 歳」が低く、「20～29 歳」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「60 歳以上の無職」が低く、「専業主婦・主夫」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「夫婦世帯」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、「20 年以上」が低く、「10～20 年未満」が高くなりました。

○ 令和 5 年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表 11 のとおりでした。

表 11 「家族関係」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 5	R 5 - H31
県計		3.84	3.91	0.07
年代	40～49 歳	3.77	3.93	0.16
	50～59 歳	3.72	3.90	0.18
職業	会社役員・団体役員	3.73	4.05	0.32
	常用雇用者	3.84	3.95	0.10
広域振興圏		3.74	3.87	0.12

② 分野別実感が上昇した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に上昇した属性は、表 11 のとおりであり、職業別「会社役員・団体役員」で上昇幅が大きい傾向にあります。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、実感が上昇した人が選択した上位 3 位の項目は、以下のとおりでした。
 - (ア) 会話の頻度（多い・少ない）
 - (イ) 同居の有無
 - (ウ) 困った時に助け合えるかどうか
- ・ 補足調査結果において、実感が上昇した人と、実感が横ばい又は低下した人の「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」の項目を比較すると、「同居の有無」、「一緒にいる時間」、「家事負担のバランス」、「ペットの存在」、「困ったときに助け合えるかどうか」において、実感が横ばい、低下した人の回答が少ない一方で、実感が上昇した人で回答が多くなっていました。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が上昇した要因は、「会話の頻度が多いこと（会話が多い、会話・だんらんが楽しいなど）」、「同居あるいは別居がうまくいっていること（同居家族に相談できることなど）」、「困った時に助け合えていること（別居の子どもが面倒をみってくれるなど）」であると推測されます。

② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- ・ 平成 28 年から令和 5 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）で推移

している属性は、世帯別「夫婦のみ世帯」であり、低値（3点未満）で推移している属性はありませんでした。

- ・ 世帯別「夫婦のみ世帯」の属性を有し、令和5年補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因」において、「感じる・やや感じる」と回答した人が選択した上位3位の項目は、「会話の頻度(多い・少ない)」、「同居の有無」及び「困った時に助けあえるかどうか」でした。
- ・ 令和4年までに、過去2回以上実感が低い要因として推測されたものは、「会話の頻度が多いこと」、「同居（あるいは別居）がうまくいっていること」、「困ったときに助け合えていること」及び「家族がよい精神的影響（貢献）を自分にもたらしていること」でした。
- ・ 以上のことから、「会話の頻度が多いこと」、「同居（あるいは別居）がうまくいっていること」及び「困ったときに助け合えていること」が、高値で推移している要因として推測されます。

表 12 「家族関係」の実感において高値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R 2	R 3	R 4	R 5
世帯構成	夫婦のみ	4.05	4.00	4.04	4.02	4.03	4.02	4.10	4.09

○「家族関係」に係る主な意見

No.	意見内容	発言者	区分	発言部会
1	やっぱりコロナでどんな影響を受けたか受けなかったかといったときに、非常に別建ての要素、コロナとは別建ての要素がやっぱりあるので、深いところでは異なっていたということが上昇したという訴えとして出てきてはあるかもしれませんが、むしろ深いところで安定的という格好でいきたいなというふうに思っています。	竹村委員	意見	第2回
2	家族関係の傾向ということからいうと、やっぱり会話の頻度のようなものというのが前から高かったわけですが、政策として考えたときに、では会話の頻度を高めるための何か政策はあるのかというふうに思うわけです。ただ、実態として捉えておくということは、そのまま書く必要があるのですけれども、むしろ・・・の問題というのは実感が低下した人の回答の中で、家族が自分にもたらす精神的な影響があるというようなところについては、やはり低下した人のところでは1位と同数出ているということです。こういうところには、注目をしておくということがまずは大切なのか。	竹村委員	意見	第2回
3	家族、会話の頻度はどれも多いので、むしろ私は家事分担のバランスというのは効くのだわという、家事分担は家族が手伝ってくれるしとかとなると、実感が上昇するのだなというようにちょっと読みました。あとは、やっぱり同居は効くのです。	若菜委員	意見	第2回

○分野別実感

③家族と良い関係が取れていると感じますか

		H31	R 2	R 3	R 4	R 5
県計 (522)		3.94	4.02	3.98	3.98	4.01
性別	男性 (265)	3.91	4.03	3.93	3.94	4.07
	女性 (254)	3.99	4.00	4.04	4.03	3.97
	その他					
年代	18～19歳 (参考)					
	20～29歳 (25)	3.92	3.96	3.93	4.00	3.92
	30～39歳 (63)	3.95	4.15	4.00	4.08	4.02
	40～49歳 (104)	3.89	3.83	3.92	3.79	3.89
	50～59歳 (103)	3.94	4.06	3.89	3.92	4.13
	60～69歳 (99)	3.88	4.03	3.98	3.98	3.99
	70歳以上 (125)	4.08	4.10	4.16	4.14	4.08
職業	自営業主 (43)	3.79	4.00	3.93	3.94	3.79
	家族従業員 (8)	3.79	4.10	3.58	3.90	4.00
	会社役員・団体役員 (30)	3.42	3.97	3.78	3.90	4.03
	常用雇用者 (197)	4.02	4.01	4.00	4.03	4.06
	臨時雇用者 (78)	4.03	3.91	3.84	3.75	3.92
	学生＋その他 (26)	3.95	3.92	3.91	3.84	4.15
	専業主婦・主夫 (52)	4.13	4.28	4.18	4.07	4.12
	60歳未満の無職 (参考) (11)	2.14	3.44	3.62	3.56	3.18
可処分所得	60歳以上の無職 (76)	4.13	4.15	4.27	4.14	4.13
	100万円未満 (103)		3.94	3.93	3.92	3.84
	100万円以上300万円未満 (263)		3.92	3.97	3.93	3.99
	300万円以上500万円未満 (95)		4.17	3.98	4.14	4.18
	500万円以上700万円未満 (33)		4.47	4.07	4.00	4.12
	700万円以上1,000万円未満 (14)		4.50	3.94	4.31	4.36
	1,000万円以上1,500万円未満 (3)		3.25	4.50	4.00	3.33
世帯構成	1,500万円以上 (2)		3.00	5.00	3.67	5.00
	ひとり暮らし (62)	3.75	3.69	3.57	3.67	3.58
	夫婦のみ (110)	4.18	4.26	4.20	4.19	4.35
	2世代世帯 (216)	3.98	4.07	4.08	4.08	4.04
	3世代世帯 (76)	3.91	4.00	3.95	3.81	3.92
	その他 (29)	3.67	3.60	3.75	3.76	3.72
子の数	1人 (66)	4.13	4.16	3.97	4.01	4.17
	2人 (190)	4.07	4.11	4.09	4.05	4.13
	3人 (108)	3.93	4.08	4.05	3.95	4.03
	4人以上 (17)	4.05	4.14	4.33	4.38	4.29
	子どもはいない (128)	3.71	3.74	3.78	3.83	3.75
住まい	持家（一戸建て） (421)		4.04	4.01	4.00	4.04
	持家（集合住宅(マンション等)） (10)		4.40	4.23	4.00	4.50
	借家（一戸建て） (21)		3.69	3.77	3.59	3.55
	借家（集合住宅(アパート等)） (55)		4.03	4.05	4.10	3.91
	その他（社宅、寮、下宿など） (6)		3.64	3.33	3.00	4.00
居住年数	10年未満 (15)	4.14	4.38	4.33	4.31	4.33
	10～20年未満 (16)	4.17	4.22	3.95	4.05	4.06
	20年以上 (483)	3.93	3.99	3.98	3.98	4.00
広域振興圏	県央 (143)	4.04	4.13	4.16	4.12	4.14
	県南 (132)	3.88	3.93	3.88	3.85	3.91
	沿岸 (121)	3.99	4.10	3.92	4.05	4.04
	県北 (125)	3.88	3.93	3.97	3.91	3.94

() は、R5調査のサンプル数

分野別実感(3)「家族関係」の分布(H31とR5)

(単位：人)

H31→ R5 ↓	5 感じる	4 やや感じる	3 どちらともい えない	2 あまり感じな い	1 感じない	0 わからない (該当しな い)	不明、未 記入、複 数回答	(計)
5 感じる	115	46	14	3	2	0	1	181
4 やや感じる	58	99	29	10	3	1	1	201
3 どちらともい えない	9	23	36	13	8	4	3	96
2 あまり感じな い	2	4	8	6	1	0	0	21
1 感じない	0	0	1	3	7	1	0	12
0 わからない (該当しな い)	1	3	0	0	0	4	0	8
不明 未記入 複数回答	1	1	1	0	0	0	0	3
(計)	186	176	89	35	21	10	5	522

- ① 実感が上昇した人(斜体かつ灰色セル) 128 人
H31からR5にかけて1段階以上上昇した人
(ただし、H31調査「1(感じない)」→R5「2(あまり感じない)」は除く。)
- ② 実感が変化なしの人(黒色セル、白文字) 263 人
- ③ 実感が低下した人(水玉パターンのセル) 50 人
H31からR5にかけて1段階以上低下した人。
(ただし、H31調査「5(感じる)」→R5「4(やや感じる)」は除く。)

分野別実感の回答理由

(3) 家族関係

補足調査

ア 実感の変化別

分 野	上昇	横ばい	低下
R2	ア 同居の有無 イ 会話の頻度 ウ 困った時に助け合えるかどうか	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 同居の有無 ウ 困った時に助け合えるかどうか	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 家族が自分にもたらす精神的影響 (貢献・負担) ウ 一緒にいる時間
R3	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 同居の有無 ウ 一緒にいる時間(長い・短い)	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 困った時に助け合えるかどうか ウ 同居の有無	ア 家族が自分にもたらす精神的影響 (貢献・負担) イ 会話の頻度(多い・少ない) ウ 同居の有無
R4	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 同居の有無 ウ 困った時に助け合えるかどうか	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 困った時に助け合えるかどうか ウ 同居の有無	ア 家族が自分にもたらす精神的影響 (貢献・負担) イ 会話の頻度(多い・少ない) ウ 同居の有無 エ 困った時に助け合えるかどうか
R5	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 同居の有無 ウ 困った時に助け合えるかどうか	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 同居の有無 ウ 困った時に助け合えるかどうか	ア 会話の頻度 イ 家族が自分にもたらす精神的影響 (貢献・負担) ウ 困った時に助け合えるかどうか

イ 単純集計 (各調査年)

分 野	感じる・やや感じる	どちらともいえない	あまり感じない・感じない
R2	ア 会話の頻度 イ 同居の有無 ウ 困った時に助け合えるかどうか	ア 会話の頻度 イ 家族が自分にもたらす精神的影響 (貢献・負担) ウ 同居の有無	ア 会話の頻度 イ 家族が自分にもたらす精神的影響 (貢献・負担) ウ 困った時に助け合えるかどうか
R3	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 同居の有無 ウ 困った時に助け合えるかどうか	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 家族が自分にもたらす精神的影響 (貢献・負担) ウ 自分が家族にもたらす精神的影響 (貢献・負担)	ア 同居の有無 イ 家族が自分にもたらす精神的影響 (貢献・負担) ウ 会話の頻度(多い・少ない)
R4	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 同居の有無 ウ 困った時に助け合えるかどうか	ア 家族が自分にもたらす精神的影響 (貢献・負担) イ 会話の頻度(多い・少ない) ウ 困った時に助け合えるかどうか	ア 家族が自分にもたらす精神的影響 (貢献・負担) イ 会話の頻度(多い・少ない) ウ 困った時に助け合えるかどうか
R5	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 同居の有無 ウ 困った時に助け合えるかどうか	ア 会話の頻度 イ 家族が自分にもたらす精神的影響 (貢献・負担) ウ 同居の有無	ア 家族が自分にもたらす精神的影響 (貢献・負担) イ 会話の頻度(多い・少ない) ウ 自分が自分にもたらす精神的影響 (貢献・負担)